



第2回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会
The 2nd PDA Junior High School Parliamentary Debate National Competition

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日程：2019年3月21日（木）

会場：朝日新聞本社 12階アサコムホール

（〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島2丁目3-18）

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

後援：朝日新聞社、朝日中高生新聞、

一般社団法人 日本英語交流連盟、公立大学法人 大阪府立大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

協賛：TOEFL junior®

開催趣旨：

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

（参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>）

参加校：（青森県）八戸聖ウルスラ学院中学校

（栃木県）栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校

（千葉県）翔凛中学校

（東京都）筑波大学付属駒場中学校

（東京都）渋谷教育学園渋谷中学校

（東京都）東京都立小石川中等教育学校

（東京都）東京都立武蔵高校附属中学校

（神奈川県）湘南白百合学園中学校

（神奈川県）栄光学園中学校

（愛知県）東海中学校

（滋賀県）滋賀県立守山中学校

(大阪府) 関西創価中学校
(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校
(熊本県) 熊本県立八代中学校

14 校 14 チーム

タイムスケジュール：

12:00 開会式
12:20 予選 1
13:30 予選 2
14:40 決勝進出チーム発表、決勝準備
15:00 決勝
15:20 レクチャー
15:40 表彰式、アンケート
16:00 終了

ご挨拶：

本大会は、第2回目の PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会となります。高校では、次期学習指導要領での新科目案「論理・表現」においても即興型英語ディベートの活用が期待されるなど、英語で、即興で、ディベートをする取り組みが広がってきています。それと同時に、中学校においても、教科書のパターンから脱出し高校での学習につなげるべく、即興型英語ディベートの導入が少しずつ進んできています。本大会を通し、全国の中学生と議論を交わすことで、今後のさらなる勉強へのモチベーションになりましたら嬉しく思います。また本全国大会で取り扱う即興型英語ディベートは、授業導入可能なフォーマットです。本日の学びが日々の授業への参考になりましたら幸いです。

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）代表理事
中川智皓（大阪府立大学工学研究科・准教授）

メッセージ：

中学生による全国大会開催おめでとうございます。昨年の初開催では、全国から集まった中学生のみなさんが、英語で主張を戦わせ、テーマを深掘りしていく姿に感銘を受けました。英語を学び始めてまださほど時間が経っていないのに、ひとつのテーマを仲間で掘り下げ、問題点を整理し、即興で主張を組み立てていく。大人でも難しいことに挑戦する参加者のみなさんはとても輝いていました。今年も、全国の仲間と競いあい、そのなかできっと新しい考え方、新たな友人が見つかるでしょう。今日一日が皆さんにとって大切な宝物になることを願っています。

キーノートスピーカー 朝日新聞大阪本社代表室長補佐兼広報担当部長
安東建 氏（元ナイロビ、テヘラン特派員）

R1 中学生は、学校へのスマートフォンの持参を認められるべきである。

Junior high school students should be allowed to bring smartphones to school.

R2

高校の正規科目として、eスポーツを導入すべきである。

High schools should introduce eSports as a regular course.

GF

ビニール袋の製造は禁止すべきである。

Production of plastic bags should be banned.

青森県から熊本県まで全国の中学校が参加され、会場には早い時間から多くの参加者が集まりました。

受付ブースでは、後援、協賛くださいました企業、団体様から、生徒たち、保護者の方々への配布資料等が並びました。朝日中高生新聞には PDA 代表理事 中川智皓による「ニュースで！即興型英語ディベート」の月連載のコーナーもあります。

正午、開会式がはじまりました。参加する 14 校が紹介されました。約 100 名の中学生・教員・保護者・見学者が集まりました。大会でのルール諸注意、POI (Point of Information: ディベート中の質疑応答) の練習などを行いました (写真右)。生徒たちは緊張していた様子でしたが、POI の練習で少し緊張がほぐれたようです。この即興型ディベートはイギリスの議会を模したディベートです。ディベート中に質疑応答を要求する際はこのポーズをして“POI!”と言います。練習では元気よく“POI!”と叫びながら POI のポーズをすることができました。



予選1が開始されました。14チームが7テーブルを使い一斉にディベートを行います。いよいよ予選が始まるという緊張感のためか、会場の空気がとても張りつめています。

予選1の論題は、Junior high school students should be allowed to bring smartphones to school.「中学生は、学校へのスマートフォンの持参を認められるべきである。」です。

論題が発表されると生徒たちは与えられた15分の準備時間を有効に活用しようとアイデアを出し始めます。配布されているブレストシート（アイデア出しシート）に各々が思いついたアイデアを書き出し、チームメイトと共有していきます。中には、相手はどんなことを言ってくるだろうかと予想しながら自分たちの立論のポイントを考えるチームもありました。この準備時間でどれくらい相手の話を予想できるかが反論や再構築を左右します。



予選1ラウンドの様子です。生徒たちはジャッジの目をしっかり見て、自分たちのポイントや相手チームへの反論などを英語で伝えています。スピーカーの話を聞き洩らさないよう聞く側も真剣です。



ラウンドが終了するとジャッジによるラウンド全体に対してのリフレクションがあります。教員や社会人、大学生によるジャッジは、論理的かつ教育的配慮を心がけて説明するようにします。チームの勝敗を発表したのち、何故そのチームが勝ったのかという理由の説明があります。続いて生徒たち一人ひとりに対してコメントが丁寧に説明されます。生徒たちは、次のディベートに活かそうとジャッジの言葉を真剣にメモを取りながら聞いています。

予選2の論題は、High schools should introduce eSports as a regular course. 「高校の正規科目として、eスポーツを導入すべきである。」です。Government（肯定側）も Opposition（否定側）も今まで自分たちが見聞きした情報を例に出すなど、さらに白熱した議論となりました。



（写真左）大会1位から3位のチームにはトロフィーが授与されます。

1 戦目では緊張のためか、相手からの POI を受けて返答する余裕がない場面も見られました。しかし、2 戦目に入る前に PDA スタッフより受けた「相手が質問したいことがあるということは自分の言いたいことがジャッジに伝わっていない可能性もある。また、もし痛いところを突かれてしまってもチームとしてその穴を埋めることができればより自分たちにとって有利になる。POI で質問したり返答したりすることでお互いの理解や議論に深みが出る。」というアドバイスを受けた生徒たちは、2 戦目になると、積極的に POI で質問したり返答したりできていました。



(写真右) ラウンド終了後は対戦チーム全員と必ず握手を交わします。ディベートは紳士淑女のゲームのため、きちんとした礼儀正しいマナーが求められます。

ラウンド中は一生懸命に議論を戦わせますが、試合が終わるとすぐに生徒たちから安堵のためか笑顔がこぼれます。そのあとジャッジからの勝敗発表を待つ間も、うまく伝えられなかった部分を相手に伝え議論をしたり、相手チームの地元のことをたずねたり、初めて会う他校の生徒との交流を深めていきました。

2 戦目が終了し休憩時間をはさんでから、決勝戦進出チームの発表がありました。決勝戦の論題は、Production of plastic bags should be banned. 「ビニール袋の製造は禁止すべきである。」です。すぐに決勝進出チームは準備にとりかかります。決勝戦は全員の前でディベートするため、壇上でラウンドをおこないます。またジャッジも一人ではなく、複数人のジャッジによる判定でチームの優勝が決まります。

決勝戦では Government チームも Opposition チームも互いにとても素晴らしい議論を展開してくれました。Gov 側は今人々がビニール袋を使いすぎており、マイクロプラスチックによる健康被害が発生している点を、また Oppo 側は貧富の格差や先進国と途上国の格差についてや、禁止よりも規制の方が優れている点を、それぞれチームの方針を力強く英語で説明することができました。



決勝戦の結果が出るまえに、本大会のキーノートスピーカーである朝日新聞大阪本社代表室長補佐兼広報担当部長の安東建氏より、決勝戦の論題であったビニール袋の製造に関するキーノートレクチャーを行っていただきました。現在、ケニアではすでにビニール袋の製造は禁止されています。その中でなぜ日本はビニール袋の製造を禁止にいたることができないのか、という問いを中心に、ビニール袋をめぐる諸問題について解説が行われました。新聞を読むことでスマートフォンよりも正しい情報を得ることができます。正しい情報を得ることで知識を深め、そこから自分たちがどう考えるかを考えて欲しいというメッセージをいただきました。



(写真右) 優勝チームが決定し表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われました。

優勝チームには賞状、トロフィーが授与されました。

第2回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

優勝：筑波大学付属駒場中学校

準優勝：渋谷教育学園渋谷中学校

第3位：東海中学校

第4位：栄光学園中学校

第5位：八戸聖ウルスラ学院中学校

ベストディベーター賞：13名

ベスト POI 賞：12名



優勝：筑波大学付属駒場中学校



準優勝：渋谷教育学園渋谷中学校





集合写真

アンケート（抜粋）

1. 生徒の感想

- ・貴重な楽しい時間をありがとうございました。他校の高いレベルのディベートに圧巻され、高校でも頑張ろうと思いました。今後の大会も楽しみです。（宇都宮東・3年）
- ・全国の中学生とディベートできたのはとても楽しかった。また、話のかみあったディベートができてよかった。（神戸大附属・3年）
- ・他校とディベートをして良い刺激になった。決勝戦は本当に素晴らしくて、自分もディベートに対するやる気をもっとわいてきた。これからは新聞を読もうと思った。（都立小石川・3年）
- ・ディベートを始めて1ヶ月半ほどで、まだまだ実力不足だなと感じる部分が多くありました。相手校の方とも交流を深められたことや、全く考えつかなかった論・ハイレベルな決勝に触れてもっと英語を勉強したい、色々な情報を持っていたいと思いました。ディベートをもっと楽しむために、英語力も知識も身につけていきたいです。（都立小石川・3年）
- ・全国大会ながら、チーム同士の交流も明るく、参加していて気分がよかったです。英語力の不足を感じましたので、これからは試験などに積極的に取り組み、自らの成長につなげていきたいと思いました。（守山・3年）
- ・とても緊張していたので、とても楽しんでいたとは言えないが、それでもディベート自体はエンジョイできた。（守山・3年）
- ・多くの学校と交流や意見の交換をすることができたので、楽しかった。また、ディベート後もジャッジの方から様々な意見を聞くことができたので、意見や考えを深めるいい機会となった。（八代・3年）
- ・初めて自分の学校以外の人とディベートという形で交流をはかれ、とてもいい経験ができました。自分の意見に欠けている部分を見つけることができたので今後の活動に活かしていきたいです。（八代・3年）
- ・自分の思うように相手のスピーチへの反駁などのスピーチができず、歯がゆく感じました。普段、交流することのない学校の生徒とディベートできてよかったです。この経験を今後の自分の英語学習に活かしていきたいです。（関西創価・3年）
- ・他校の生徒たちの英語力に驚いた。これからも英語の勉強に励みたいと思う。（都立武蔵・3年）
- ・もっと英語の勉強を頑張ろうと思いました。また、一つの問題を多面的に見ることができるようになったと思います。これからもディベートで得たことを伸ばしていきたいと思います。全国の方々とディベートできて楽しかったし、有益でした。（都立武蔵・3年）

2. 教員・見学者の感想

- ・普段から自分自身が色々な問題について考えることが大切だとわかりました。生徒にも伝えていきたいです。
- ・全国の中学生の熱い議論を直接見ることができ、大変良い機会になったのはもちろん、「知りたい」欲を前面に出している中学生の姿勢に感動しました。
- ・自校の生徒が生き生きとディベートする姿が見られた。他校の生徒のディベート力に自校の生徒が大いに刺激を受けており、今後のモチベーションにつながると思う。
- ・決勝大会を見て中3のレベルとは思えない素晴らしいディベートだった。あのような中学生のレベルにどうやったらなるのか、そのプロセスなども学ぶ機会があったら嬉しい。
- ・中学生のハイレベルなディベート実践は本当に勉強になりました。

3. キーノートレクチャーについて

- ・世界の情報を伺うことができ生徒とともに学ばせていただきました。
- ・昨今のニュースで、しかも他の発展途上国との比較。今の日本が持っている課題と、解決したくないエゴとのジレンマ。そこについて新たに問題を知ることができてよかったと思います。
- ・新聞・ディベートを通して世間で起きていることに関心を持つことの大切さ、今の時代への向き合い方など色々考えなければならぬと感じました。
- ・今後の日本にとって大切なものは何なのかを考えさせられた。一つの題に対して、肯定、否定に分かれて意見を深めて決定するのが大切だと思った。
- ・決勝のお題の意味を深く考えさせられるものとなりました。記事をしっかりと読み、今後、自分はどの立場なのかを考えていこうと思いました。
- ・新聞や時事問題に関心を持つことの重要性がわかった。
- ・ケニアではもうすでに禁止されていると知り驚きました。新聞を読むことは大切だと思いました。
- ・今起きている社会問題について知れてよかったと思います。新聞の見方も教えてもらってためになりました。
- ・資料と共に大変参考になるお話でした。

以上

結果

優勝 筑波大学付属駒場中学校

準優勝 渋谷教育学園渋谷中学校

3位 東海中学校

4位 栄光学園中学校

5位 八戸聖ウルスラ学院中学校

6位 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校

7位 湘南白百合学園中学校

8位 翔凛中学校

9位 東京都立武蔵高校附属中学校

10位 熊本県立八代中学校

11位 東京都立小石川中等教育学校

12位 関西創価中学校

13位 神戸大学附属中等教育学校

14位 滋賀県立守山中学校